

差別される気持ち

高二

私は中学二年生の時に、パニック障害という精神的な病気になりました。広場や狭い場所に行く時、とても不安になり息が荒くなって発作が起きました。日に日にその発作の回数が増えていき、周りの人がだんだん私のことを差別するようになりました。最初に陰口を言われるようになり、さらに発作の真似をされるようになりました。私は何度も担任の先生や保健室の先生に訴えて、その人たちを注意してもらいましたが、無駄でした。毎日差別されることによって、自分を責めるようになり、死ぬことも考えました。差別から逃げたかったのです。苦しくて怖くて、自分の精神的な病気から逃げたくありませんでした。

しかし、高校に入ってから、とても良い仲間に出会えました。発作が起きても「大丈夫？」と言ってもらえるようになり、中学の時のように嫌な事をされなくなりました。友人もでき、先生にほめて

もらえることもあります。また、農業高校なので畑の仕事などがあり、本当に楽しくて、中学時代がうそのように思えます。生きていて、今が一番楽しいと思えるようになりました。しかし、時々思い出す中学時代。今はもう発作は起きないけれど、あの時苦しんでいた発作、それを真似する人たち。今でも一人になると怖くなり、死にたい、早く消えたいなどと思ってしまうこともあります。私を差別してきた人たちを許せない気持ちになります。

でも、今が本当に幸せなのです。差別をしていた人たちですら許せてしまうのです。それが怖いのです。差別は許せないことであり、いけないことなのに、今許して良いのだろうかと思うのです。差別された人は、孤独で不安で怖くてしかたがありません。これは差別されたことのある人にしか分かりません。ですから、もう一度みんなに言いたいのです。

「差別やいじめは絶対にやめて」と。



